

基层 医务 人员 教材

下

福建科学技术出版社

前 言

为提高基层医务人员业务水平，特编写这部教材。本教材根据基层医务人员的实际需要，分上、中、下三册。内容相当于中专水平。上册为基础医学部分；中册为临床医学部分；下册为中医中药部分。

本册（下册）内容包括中医学基础、中医针灸、中草药与方剂等方面，共三篇，四十七章。为方便自学和提高教学效果，还有八十多幅插图。

本教材是由福建省卫生厅组织福建中医学院、福建省卫生学校，以及省属和福州市的防疫、医疗、科研单位的有关人员共同编写的。由于编者水平有限，错误缺点在所难免，希望读者提出批评，以便进一步修订。

一九八一年八月

目 录

第一篇 中 医 学 基 础

绪论.....	(1)	一、六淫.....	(42)
一、中医学基础的主要内容.....	(1)	二、疫病.....	(47)
二、中医学术理论的形成.....	(2)	三、七情.....	(47)
三、中医学术理论的特点.....	(3)	四、饮食劳倦.....	(48)
第一章 阴阳五行学说.....	(5)	五、外伤及虫兽伤.....	(49)
第一节 阴 阳 学说.....	(5)	六、痰饮、瘀血.....	(49)
一、阴阳学说的基本内容.....	(5)	第二节 病 机.....	(51)
二、阴阳学说在祖国医学中的应用.....	(7)	一、邪正斗争.....	(51)
第二节 五行学说.....	(10)	二、阴阳失调.....	(52)
一、五行学说的基本内容.....	(10)	第五章 诊法.....	(64)
二、五行学说在祖国医学中的应用.....	(12)	第一节 望 诊.....	(64)
第二章 脏 腑.....	(15)	一、全身情况.....	(64)
第一节 五脏六腑.....	(16)	二、望局部情况.....	(55)
一、五脏.....	(16)	三、望舌.....	(56)
二、六腑.....	(24)	四、排泄物的望诊.....	(59)
第二节 气血津液.....	(26)	五、小儿指纹望诊.....	(59)
一、气.....	(26)	第二节 闻 诊.....	(59)
二、血.....	(28)	一、听声音.....	(60)
三、津液.....	(28)	二、嗅气味.....	(60)
第三章 经 络.....	(31)	第三节 问 诊.....	(60)
第一节 经络的概念和组成.....	(31)	一、问一般情况.....	(61)
一、经络的概念.....	(31)	二、问起病.....	(61)
二、经络系统的组成.....	(31)	三、问现在症.....	(61)
第二节 十二经脉.....	(32)	四、问既往史及家族史.....	(63)
一、十二正经循行及分布规律.....	(32)	第四节 切 诊.....	(63)
二、十二正经循行线路.....	(33)	一、脉诊.....	(63)
第三节 奇经八脉.....	(38)	二、按诊.....	(67)
一、奇经八脉概念.....	(38)	第六章 辨 证.....	(69)
二、冲、任、督、带循行路线与功能.....	(39)	第一节 八纲辨证.....	(69)
第四节 经 络 的 作 用.....	(40)	一、八纲的主要内容.....	(70)
一、生理方面.....	(40)	二、八纲之间的相互联系.....	(74)
二、病理方面.....	(40)	第二节 气血津液辨证.....	(78)
三、诊疗方面.....	(40)	一、气的病证.....	(78)
第四章 病因病机.....	(42)	二、血的病证.....	(79)
第一节 病因.....	(42)	三、津液的病证.....	(80)

第三节 脏腑辨证	(82)	三、三焦辨证	(106)
一、脏病和腑病辨证	(82)	第七章 治则	(109)
二、脏腑兼病辨证	(95)	一、标本主次	(109)
第四节 六经、卫气营血、三焦辨证	(99)	二、扶正祛邪	(110)
一、六经辨证	(99)	三、正治反治	(111)
二、卫气营血辨证	(103)	四、因时因地因人制宜	(112)
		五、同病异治、异病同治	(112)

第二篇 中 医 针 灸

第一章 针刺疗法	(114)	三、注意事项	(140)
第一节 针法	(114)	第三章 其它针法	(142)
一、毫针的结构和常用规格	(114)	第一节 三棱针放血	(142)
二、针刺的练习	(114)	第二节 梅花针叩打	(142)
三、体位的选择	(115)	第三节 皮内针埋藏	(143)
四、针具及皮肤的消毒	(116)	第四节 耳针疗法	(143)
五、进针法	(116)	一、耳廓的名称	(143)
六、针刺的角度和深度	(117)	二、耳区的分布	(143)
七、进针后的手法	(118)	三、耳穴的测定	(145)
八、针刺的感觉与刺激强度	(118)	四、耳针的应用	(147)
九、留针、行针和起针法	(118)	五、操作方法	(147)
第二节 针刺异常现象及其处理方法	(119)	六、注意事项	(147)
一、晕针	(119)	附：常用41穴主治表	(148)
二、滞针、弯针和断针	(119)	第五节 穴位注射疗法	(149)
三、刺伤重要脏器	(119)	一、常用药液	(149)
第三节 穴位	(121)	二、操作方法	(149)
一、取穴方法	(121)	三、注意事项	(150)
二、常用穴位	(123)	第四章 穴位选配和常见病症的治疗	(151)
第二章 艾灸法及拔罐法	(139)	第一节 穴位选配	(151)
第一节 艾灸法	(139)	一、穴位的选取	(151)
一、艾炷和艾条	(139)	二、穴位的配方	(151)
二、艾炷灸	(139)	第二节 常见病症的治疗	(152)
三、艾条灸和温针灸	(140)	一、内科病症	(152)
第二节 拔罐法	(140)	二、妇、儿科病症	(154)
一、操作方法	(140)	三、其他病症	(156)
二、刺络拔罐法	(140)		

第三篇 中 草 药 与 方 剂

总 论 (中草药部分)

第一章 中草药的采收和贮藏	(158)	第一节 采收	(158)
----------------------------	---------	--------------	---------

第二节 贮藏.....	(159)	第三节 归经.....	(166)
第二章 中药的炮制.....	(160)	第四章 中药的用法.....	(167)
第一节 炮制的目的.....	(160)	第一节 配伍.....	(167)
第二节 炮制的方法.....	(160)	第二节 禁忌.....	(167)
一、净选.....	(160)	一、配伍禁忌.....	(167)
二、切制.....	(161)	二、病情禁忌.....	(168)
三、炮炙.....	(161)	三、妊娠禁忌.....	(168)
第三章 中药的性能.....	(164)	四、药物禁忌.....	(169)
第一节 四气五味.....	(164)	第三节 用量和服法.....	(169)
第二节 升降浮沉.....	(165)		

各 论 (中草药部分)

第一章 解表药.....	(171)	第二章 化痰止咳药.....	(181)
第一节 发散风寒药.....	(171)	第一节 温化寒痰药.....	(181)
麻黄.....	(171)	半夏.....	(181)
桂枝.....	(172)	天南星.....	(182)
紫苏.....	(172)	白芥子.....	(182)
荆芥.....	(173)	第二节 清化热痰药.....	(182)
防风.....	(173)	瓜蒌.....	(183)
香薷.....	(173)	贝母.....	(183)
细辛.....	(174)	竹茹.....	(183)
白芷.....	(174)	附: 竹沥.....	(184)
生姜.....	(174)	海藻.....	(184)
第二节 发散风热药.....	(175)	昆布.....	(184)
薄荷.....	(175)	第三节 止咳平喘药.....	(184)
桑叶.....	(175)	杏仁.....	(184)
菊花.....	(176)	桔梗.....	(185)
牛蒡子.....	(176)	紫苏子.....	(185)
柴胡.....	(176)	葶苈子.....	(185)
葛根.....	(177)	紫菀.....	(186)
升麻.....	(177)	款冬花.....	(186)
白苏.....	(178)	旋覆花.....	(186)
石胡荽.....	(178)	前胡.....	(187)
葱.....	(178)	白前.....	(187)
苍耳草.....	(178)	马兜铃.....	(187)
兰花参.....	(179)	枇杷叶.....	(187)
一枝黄花.....	(179)	桑白皮.....	(188)
水蜈蚣.....	(179)	百部.....	(188)
牡荆.....	(179)	买麻藤.....	(188)
防风草.....	(180)	鼠菊草.....	(189)
连钱草.....	(180)	映山红.....	(189)

紫金牛.....	(189)	荷叶.....	(202)
秘兰.....	(189)	附：荷梗、荷蒂.....	(202)
蔓苧麻.....	(190)	绿豆.....	(202)
马兰.....	(190)	青蒿.....	(203)
朝天子.....	(190)	金疮小草.....	(203)
火炭母.....	(190)	狗肝菜.....	(203)
三桠苦.....	(190)	爵床.....	(203)
白花千日红.....	(191)	叶下珠.....	(204)
胡颓子叶.....	(191)	苦蕒.....	(204)
第三章 清热药.....	(192)	少花龙葵.....	(204)
第一节 清热泻火药.....	(192)	红番茄.....	(204)
石膏.....	(192)	木槿花.....	(204)
知母.....	(192)	吊竹梅.....	(205)
栀子.....	(193)	抱石莲.....	(205)
竹叶.....	(193)	翻白草.....	(205)
芦根.....	(194)	十大功劳.....	(205)
夏枯草.....	(194)	三颗针.....	(205)
决明子.....	(194)	一见喜.....	(206)
谷精草.....	(195)	山芝麻.....	(206)
第二节 清热凉血药.....	(195)	一点红.....	(206)
生地黄.....	(195)	木芙蓉.....	(207)
玄参.....	(195)	七叶一枝花.....	(207)
牡丹皮.....	(196)	毛冬青.....	(207)
赤芍.....	(196)	狭叶韩信草.....	(207)
紫草.....	(197)	三叶鬼针草.....	(208)
地骨皮.....	(197)	黄蜀葵.....	(208)
第三节 清热燥湿药.....	(197)	白花蛇舌草.....	(208)
黄芩.....	(197)	匍匐堇.....	(208)
黄连.....	(198)	野菊花.....	(209)
黄柏.....	(198)	千里光.....	(209)
龙胆草.....	(199)	垂盆草.....	(209)
苦参.....	(199)	牛筋草.....	(209)
秦皮.....	(199)	败酱草.....	(210)
第四节 清热解毒药.....	(200)	乌韭.....	(210)
金银花.....	(200)	白英.....	(210)
连翘.....	(200)	地耳草.....	(210)
大青叶.....	(200)	鸡眼草.....	(210)
附：青黛.....	(201)	飞扬.....	(211)
蒲公英.....	(201)	天胡荽.....	(211)
鱼腥草.....	(201)	刺苋.....	(211)
白头翁.....	(201)	葎草.....	(211)
射干.....	(202)	凤尾草.....	(211)
第五节 清热解暑药.....	(202)	马蹄金.....	(212)

鹅掌金星草.....	(212)	草薺.....	(225)
铁苋菜.....	(212)	海金沙.....	(226)
积雪草.....	(212)	金钱草.....	(226)
第四章 泻下药.....	(213)	半边莲.....	(226)
第一节 攻下药.....	(213)	金丝草.....	(227)
大黄.....	(213)	第八章 祛风湿药.....	(228)
芒硝.....	(213)	羌活.....	(228)
第二节 润下药.....	(214)	独活.....	(228)
火麻仁.....	(214)	秦艽.....	(228)
郁李仁.....	(214)	威灵仙.....	(229)
第三节 峻下逐水药.....	(214)	桑枝.....	(229)
甘遂.....	(215)	五加皮.....	(229)
大戟.....	(215)	桑寄生.....	(230)
芫花.....	(215)	肖梵天花.....	(230)
羊蹄.....	(215)	半枫荷.....	(230)
南岭芫花.....	(216)	穿根藤.....	(230)
第五章 消导药.....	(217)	长叶紫珠.....	(230)
神曲.....	(217)	白勒花.....	(231)
麦芽.....	(217)	薜荔.....	(231)
谷芽.....	(217)	萱草.....	(231)
鸡内金.....	(218)	南蛇藤.....	(231)
山楂.....	(218)	龙须藤.....	(231)
莱菔子.....	(218)	白毛鹿茸草.....	(232)
独脚金.....	(219)	虎杖.....	(232)
第六章 芳香化湿药.....	(220)	楸木.....	(232)
藿香.....	(220)	三白草.....	(232)
佩兰.....	(220)	千金藤.....	(232)
苍术.....	(221)	两面针.....	(233)
砂仁.....	(221)	鸡屎藤.....	(233)
白豆蔻.....	(221)	第九章 温里药.....	(234)
第七章 利水渗湿药.....	(222)	附子.....	(234)
茯苓.....	(222)	附：乌头.....	(234)
附：茯苓皮、赤茯苓、茯神.....	(222)	干姜.....	(234)
猪苓.....	(222)	肉桂.....	(235)
泽泻.....	(223)	吴茱萸.....	(235)
茵陈.....	(223)	高良姜.....	(236)
通草.....	(223)	附：红豆蔻.....	(236)
木通.....	(223)	小茴香.....	(236)
车前子.....	(224)	附：八角茴香.....	(236)
薏苡仁.....	(224)	丁香.....	(236)
扁蓄.....	(225)	山鸡椒.....	(237)
滑石.....	(225)	第十章 理气药.....	(238)
石苇.....	(225)	橘皮.....	(238)

附：橘核、橘络、橘叶.....	(238)
青皮.....	(238)
枳实.....	(239)
附：枳壳.....	(239)
厚朴.....	(239)
木香.....	(240)
香附.....	(240)
乌药.....	(240)
川楝子.....	(241)
薤白.....	(241)
柿蒂.....	(241)
第十一章 理血药	(242)
第一节 活血祛瘀药.....	(242)
川芎.....	(242)
桃仁.....	(242)
红花.....	(243)
附：番红花.....	(243)
丹参.....	(243)
益母草.....	(244)
牛膝.....	(244)
延胡索.....	(244)
乳香.....	(245)
没药.....	(245)
五灵脂.....	(245)
降真香.....	(245)
郁金.....	(246)
姜黄.....	(246)
三棱.....	(246)
莪术.....	(247)
穿山甲.....	(247)
王不留行.....	(247)
第二节 止血药.....	(248)
三七.....	(248)
蒲黄.....	(248)
藕节.....	(249)
白及.....	(249)
地榆.....	(249)
槐花.....	(249)
侧柏叶.....	(250)
茜草根.....	(250)
大蓟.....	(250)
附：小蓟.....	(251)
白茅根.....	(251)

艾叶.....	(251)
卷柏.....	(251)
土牛膝.....	(252)
星宿菜.....	(252)
马鞭草.....	(252)
甜菜子.....	(252)
元宝草.....	(252)
韩信草.....	(253)
七叶莲.....	(253)
紫珠.....	(253)
山藿香.....	(253)
腐婢.....	(254)
第十二章 补益药	(255)
第一节 补气药.....	(255)
人参.....	(255)
党参.....	(256)
黄芪.....	(256)
白术.....	(256)
山药.....	(257)
扁豆.....	(257)
大枣.....	(258)
甘草.....	(258)
第二节 补阳药.....	(259)
巴戟天.....	(259)
肉苁蓉.....	(259)
补骨脂.....	(259)
杜仲.....	(260)
续断.....	(260)
狗脊.....	(260)
菟丝子.....	(261)
益智仁.....	(261)
第三节 补血药.....	(261)
当归.....	(262)
熟地黄.....	(262)
白芍.....	(262)
何首乌.....	(263)
阿胶.....	(263)
鸡血藤.....	(264)
第四节 补阴药.....	(264)
北沙参.....	(264)
天门冬.....	(264)
麦门冬.....	(265)
百合.....	(265)

石斛	(265)
玉竹	(266)
枸杞	(266)
女贞子	(266)
旱莲草	(267)
龟板	(267)
附: 龟板胶	(267)
鳖甲	(267)
附: 鳖甲胶	(268)
黄花稔	(268)
土党参	(268)
羊乳	(268)
粗叶榕	(268)
琴叶榕	(269)
勾儿茶	(269)
土丁桂	(269)
黄花远志	(269)
石仙桃	(269)
麦斛	(270)
第十三章 平肝息风药	(271)
石决明	(271)
珍珠母	(271)
代赭石	(271)
龙骨	(272)
附: 龙齿	(272)
牡蛎	(272)
羚羊角	(273)
天麻	(273)
钩藤	(273)
地龙干	(274)
蝉蜕	(274)

僵蚕	(275)
全蝎	(275)
蜈蚣	(275)
第十四章 安神药	(277)
酸枣仁	(277)
柏子仁	(277)
远志	(277)
合欢皮	(278)
朱砂	(278)
磁石	(278)
瓜子金	(279)
第十五章 开窍药	(280)
麝香	(280)
牛黄	(280)
冰片	(280)
苏合香	(281)
石菖蒲	(281)
第十六章 收涩药	(282)
浮小麦	(282)
五味子	(282)
乌梅	(282)
肉豆蔻	(283)
金樱子	(283)
山茱萸	(283)
乌贼骨	(284)
芡实	(284)
椿根皮	(285)
第十七章 驱虫药	(286)
使君子	(286)
槟榔	(286)
苦楝皮	(286)

总论(方剂部分)

第一章 方剂的基本知识	(288)
第一节 方剂的组成法则	(288)
第二节 药物的配伍原则	(288)
第三节 方剂的加减变化	(289)

第二章 剂型与汤剂的煎服法	(290)
第一节 剂型	(290)
第二节 汤剂的煎服法	(292)

各论(方剂部分)

第一章 解表剂	(293)
----------------	--------------

麻黄汤	(293)
-----	-------

桂枝汤.....	(294)	活络效灵丹.....	(311)
小青龙汤.....	(294)	血府逐瘀汤.....	(311)
荆防败毒散.....	(294)	生化汤.....	(312)
桑菊饮.....	(295)	咳血方.....	(312)
银翘散.....	(295)	黄土汤.....	(312)
参苏饮.....	(295)	小蓟饮子.....	(312)
第二章 泻下剂	(296)	第九章 补益剂	(314)
大承气汤.....	(296)	四君子汤.....	(314)
五仁丸.....	(296)	补中益气汤.....	(314)
十枣汤.....	(297)	当归补血汤.....	(315)
第三章 清热剂	(298)	归脾汤.....	(315)
白虎汤.....	(298)	六味地黄丸.....	(315)
玉女煎.....	(299)	左归丸.....	(316)
导赤散.....	(299)	肾气丸.....	(316)
泻白散.....	(299)	右归丸.....	(316)
龙胆泻肝汤.....	(300)	第十章 润燥剂	(317)
白头翁汤.....	(300)	杏苏散.....	(317)
葛根黄芩黄连汤.....	(300)	清燥救肺汤.....	(317)
青蒿鳖甲汤.....	(300)	养阴清肺汤.....	(318)
第四章 祛暑剂	(302)	百合固金汤.....	(318)
香薷散.....	(302)	第十一章 祛痰剂	(319)
六一散.....	(302)	二陈汤.....	(319)
清暑益气汤.....	(302)	止嗽散.....	(319)
第五章 祛湿剂	(304)	贝母瓜蒌散.....	(320)
藿香正气散.....	(304)	第十二章 和解剂	(321)
平胃散.....	(304)	小柴胡汤.....	(321)
八正散.....	(305)	逍遥散.....	(321)
茵陈蒿汤.....	(305)	半夏泻心汤.....	(321)
三仁汤.....	(305)	第十三章 治风剂	(323)
五苓散.....	(305)	川芎茶调散.....	(323)
实脾散.....	(306)	独活寄生汤.....	(323)
胆道排石汤.....	(306)	镇肝熄风汤.....	(324)
第六章 温里剂	(307)	第十四章 安神剂	(325)
理中(丸)汤.....	(307)	朱砂安神丸.....	(325)
小建中汤.....	(307)	酸枣仁汤.....	(325)
当归四逆汤.....	(308)	天王补心丹.....	(326)
第七章 理气剂	(309)	第十五章 开窍剂	(327)
越鞠丸.....	(309)	安宫牛黄丸.....	(327)
金铃子散.....	(309)	紫雪丹.....	(327)
旋覆代赭汤.....	(310)	至宝丹.....	(328)
定喘汤.....	(310)	苏合香丸.....	(328)
第八章 理血剂	(311)	第十六章 消食剂	(329)

保和丸.....	(329)	清热药.....	(341)
木香槟榔丸.....	(329)	泻下药.....	(343)
第十七章 固涩剂.....	(330)	消导药.....	(344)
牡蛎散.....	(330)	芳香化湿药.....	(344)
桑螵蛸散.....	(330)	利水渗湿药.....	(345)
真人养脏汤.....	(331)	祛风湿药.....	(346)
固冲汤.....	(331)	温里药.....	(346)
第十八章 驱虫剂.....	(332)	理气药.....	(347)
胆蛔汤.....	(332)	理血药.....	(348)
肥儿丸.....	(332)	补益药.....	(350)
第十九章 痛疡剂.....	(333)	平肝息风药.....	(352)
仙方活命饮.....	(333)	安神药.....	(353)
阳和汤.....	(333)	开窍药.....	(353)
附：参考方剂.....	(334)	收涩药.....	(354)
附：常用中药简表.....	(338)	驱虫药.....	(355)
解表药.....	(338)	其他.....	(355)
化痰止咳药.....	(339)	附：补遗常用方剂简表.....	(356)

第一篇 中医学基础

绪 论

中国医药学，是我国宝贵的文化遗产的重要组成部分。它包含着劳动人民几千年来同疾病作斗争的丰富经验和理论知识。

中国医药学不仅对中华民族的繁衍昌盛而且对世界医学的发展均有过很大的贡献。

一、中医学基础的主要内容

中医学基础是研究人体结构和生理病理，阐述“辨证论治”基本原理的一门学科，是临床各科的基础。其内容包括人体结构和理法两个部分，现列简表介绍如下：

人 体 结 构	脏 腑	五脏→肝、心、脾、肺、肾
		六腑→胆、胃、小肠、大肠、三焦、膀胱
		奇恒之府→脑、脉、骨、髓、胆、女子胞
	经 络	十二经脉
		奇经八脉
		络脉、十二经别、十二经筋、十二皮部
辨 证 的 理 论 与 方 法	组织器官→皮毛、筋、骨、肉、脉、鼻、口、目、耳、舌及前后阴等	
	理	说理工具→阴阳五行
		生 理→脏腑、经络、气血津液
		病 理→病因、病机
	法	诊 法
		四诊（收集诊断资料的方法）
		八纲辨证
		（基础诊断） 脏腑、气血津液、病因等辨证
		论治→预防与治则

其中，“阴阳五行”是我国古代朴素的唯物论和自发的辩证法思想。中医学运用它来阐明人体的结构、生理、病理，并指导临床的诊断和治疗。

“脏腑学说”是研究人体各脏腑、组织器官的生理功能、病理变化及其相互关系的学说，是祖国医学理论体系的中心环节之一。本章重点阐述五脏六腑、奇恒之府的生理功能和相互联系，同时介绍精、气、血、津液、神的生成、作用及其相互之间的关系。从而说明精、气、血、津液既由脏腑功能活动所化生，又是脏腑功能活动的物质基础。

“经络学说”是祖国医学理论体系的重要组成部分。它贯串在祖国医学的生理、病理和诊断治疗等各方面。千百年来，它不仅是中医论证疾病所依据的基本理论之一，而且一直指

导着中医临床各科的医疗实践，并在实践中不断得到充实和发展。本章着重介绍十二正经和奇经八脉的基本概念、分布、走向与交接规律、循行路线及其在生理、病理、诊断、治疗上的作用。

“病因病机”主要阐述疾病发生、发展规律，以及各种致病因素的性质、特点及其所致病证的临床表现。

“诊法”是收集病情资料、诊察疾病的方法。本章主要介绍望、闻、问、切四诊的基本方法、内容及其临床意义。

“辨证”是运用四诊收集到的症状、体征作为根据，进行综合分析以判断疾病发生发展的过程，并确定疾病的原因、部位、性质和邪正斗争的局势等情况，从而为治疗提供依据。本章着重介绍八纲、脏腑、气血津液等辨证方法。这些辨证方法，从不同的角度总结了认识疾病的一般规律，但又都是在中医基础理论指导下，互相联系、互相补充的。

“论治”包括预防与治则。预防强调“治未病”和“防微杜渐”；治则即治病的基本法则，主要介绍“治病求本”，“扶正祛邪”，“调整阴阳”以及“因人、因时、因地制宜”等几个方面内容。

上述这些内容，都是中医理论体系的组成部分，它们是从实践中产生，并转过来指导实践的理论知识，同时在实践中不断得到丰富和发展。几千年来，一直有效地指导着中医临床各科的医疗实践。

二、中医学学术理论的形成

远在几千年前，我们的祖先在采食植物的过程中，通过不断尝试，发现某些草根、树皮能引起吐泻或其他中毒现象，因而逐渐认识了某些植物的性能，积累了应用植物类药物治病的经验。同时，在狩猎的过程中，又逐渐积累了使用动物类药物治病的经验。古代的针灸疗法，也是在火的发明和使用精细石制工具的基础上，通过体表加温或烧灼或使用石针刺激，可以消除某些疾苦的实际经验，逐渐发展起来的。

在二千二百年前，由于铁器的使用和生产力的提高，科学文化和医学知识有了很大的发展。在医疗经验的积累日趋丰富和当时文化发展的基础上，产生了我国现存最早的总结性医学著作《内经》。

内经，全称《黄帝内经》包括“素问”九卷八十一篇；“灵枢”九卷八十一篇，共一百六十二篇。它从整体观念出发，运用朴素的唯物论和自发的辩证法观点（如阴阳五行学说），对人体的生理、病理及疾病的诊断、治疗、预防和针灸等方面，作了初步的较全面的阐述，奠定了中国医药学的理论基础。嗣后，随着社会的发展和医学实践经验的不断丰富，许多医学著作相继问世，使祖国医学理法方药各方面更加丰富多采。

二千多年来，由于时代的局限性，中医对解剖学无法进一步发展，因而现代科学也无法为中医所接受，所以中医对人体的认识，除了初步的解剖知识外，逐渐分化而从“治疗实践”和“生活体验”这二个方面去发展。

第一，从有效治疗实践推断生理。例如，用了“柿蒂”、“代赭石”等镇吐药可以镇吐，那末从这个角度逐渐认识到“呕吐”一症是由于“胃气上逆”这一病理产生的现象，由此推演到胃的生理功能应该是“胃气下降”。又如，猪肝、羊肝可以治疗夜盲病；黄连、龙胆草平肝泻火可以治疗目赤肿痛，由此推演出肝与目的关系密切，即“肝开窍于目”这一生理现象。

第二，从生活体验推演生理现象。例如，冬天由于寒性收引，毛孔闭塞，所以表现“汗少尿多”；夏天由于阳热亢盛，毛孔开泄，所以表现“汗多尿少”的不同生理现象。从而认识到“汗”、“尿”是人体水液代谢的产物，并可以由此推测出人体内津液盛亏等情况。

所以说，中医学术理论始终贯穿着“实践第一”的观点，阐述了机体对立统一的基本规律，以及内环境的整体性及其与外环境的统一性。

同时，初步的解剖知识也指导了临床实践，二千多年前的《内经》中就记载了初步的解剖知识，而且某些方面与现代医学的记载极为相似。例如，《灵枢·胃肠篇》记载，食道与肠道的比例为1:36；现代斯巴德柯辞氏著的《近代解剖图》记载，食道与肠道的比例为1:37。

历代医家在《内经》的基础上，又进一步总结了各个时代的医疗实践经验，不断丰富和发展了祖国医学的内容。现存有书目可参考的文献，就达到六千余种之多，其中绝大多数至今仍然具有重要的参考价值。

三、中医学术理论的特点

中国医药学是在长期的医疗实践中，在朴素的唯物论和自发的辩证法思想的影响和指导下，逐步形成和发展起来的独特理论体系。并且对人体的生理功能、病理变化和疾病的原因的认识，以及对疾病的诊断和防治等方面，一直保持着自己的特点。

（一）整体观念：

1、人体内环境的有机联系：祖国医学认为，人体是个有机的整体。构成人体的脏腑、组织、器官等各个组成部分之间在结构上是不可分割的，在功能上是相互协调、相互为用的。可以认为，在生理上人体是以五脏为中心，经络为联系，以心为主导，组成的一个相互联系的整体，从而维持人体的正常生命活动。在病理上，脏腑的功能失常，可以通过经络反映于肌表；体表组织有病，同样可以通过经络影响到所属的脏腑；脏与腑之间也可以通过经络的联系而相互影响。所以中医诊治疾病可以通过“四诊”，从五官、形体、色、脉等外在变化，用以了解体内脏腑的虚实、气血的盛衰以及邪正的消长。例如，心主血液循环，但必须依赖肺司呼吸的功能，这说明在人体生命活动中，心和肺是有机联系的，很难想象人不呼吸而心脏仍然持久地跳动或心不跳动而肺仍维持长久地呼吸而生活着的。再如，目赤肿痛，暴露在外部，但五脏六腑之精皆上注于目，而肝又开窍于目，同时肝脏与眼睛又有经络直接相联系，所以肝火上冲的目赤肿痛可以用清肝火，散风热的方法治疗，能够取得很好的效果。

2、人与自然界的密切联系：祖国医学认为人与自然界息息相关。人类生活在大自然中，自然界环境有赖于人类赖以生存的条件。除了饮食、呼吸必须依赖自然界外，人体还通过感受器官和外界环境保持密切的联系。因而自然条件的变化，必然影响到人体，所以人体必须适应自然环境和改造自然环境，才能正常地生活。在正常生理情况下，人体通过内部的机能调节去适应春温、夏热、秋凉、冬寒的四季气候变化，使之与外界环境保持相对的适应。但这种适应能力是有一定限度的。若自然界环境发生剧烈变化，人体的调节机能不相适应，即打破了人体内外环境的相对平衡，那末就会发生疾病。如气温的突然升高和降低或阴雨连绵或久旱无雨，均可引起疾病。在四季气候变化中，每一季节的疾病，都有它的不同特点，如春季多温病，夏季多痢疾，秋季多疟疾，冬季多咳嗽等。还有某些慢性病，如痹证，哮喘等

往往在气候剧变或季节变换的时候病情加重，所有这些充分说明了人与自然界是息息相关的。因此，我们在治疗时应该因时制宜，并且在气候异常变化时，要做到预防为主，防止疾病的发生和加重。

此外，祖国医学不但把人与自然界看成是对立统一的关系，而且把病与人也看成是一个矛盾的对立体，因而确立了治病治人的观点，并且在临床上提出“扶正祛邪”的治疗大法。

(二) 辨证论治：辨证论治是中医学诊治疾病的独特方法。辨证就是将四诊（望、闻、问、切）所收集的有关疾病的各种症状和体征，加以分析、综合、归纳、判断为某种性质的证候。论治又叫施治，是根据辨证的结果，确定相应的治疗方法。

同种疾病，虽有它共同的规律性，有它相应的治法，但由于个体矛盾特殊性的不同，病邪转化的不同，导致病理不同，所表现的证候也不同，治法各异，这叫做“同病异治”。例如，“感冒”一病，按中医辨证有“风寒感冒”、“风热感冒”、“阳虚感冒”、“阴虚感冒”等不同证型。反映在治疗上，就有辛温解表、辛凉解表、助阳解表、滋阴解表等不同的治疗方法。反之，不同的疾病，在其发生发展过程中，由于病理相同，可以出现相似或类同的证候，那末治疗方法也可以一样，称为“异病同治”。例如“胃下垂”、“子宫下垂”、“脱肛”等病，按中医辨证均属中气下陷，治疗上都可以应用补中益气法。总之，必须根据辨证的观点在临床上，注意到病机变、治法变、方药变的道理。

但是，由于时代的限制，中医对病因、诊断、防治等方面尚存在一定的局限性，未能运用现代科学方法来深刻地认识微观的致病因素。因此也不可能认识到疾病过程中，机体内部微观的病理变化。这些不足之处，还有待我们应用现代科学进行研究和整理提高，逐步促进中西医结合，创造中西医结合的新医药学。

综上所述，中医学基础是阐述中医学的基本理论和学术思想，介绍中医学的生理概念，病理变化和辨证论治的基本规律的一门学科。它是学习中医的入门和向导。它的任务，就是系统地学习、掌握中医最基本的理论知识，为今后学习中药学、方剂学以及其他古典医著和临床各科奠定基础。

第一章 阴阳五行学说

我国古代哲学思想——阴阳五行学说，是朴素的唯物论和自发的辩证法思想。据有关文献记载，阴阳五行学说最早出现于殷周之际，而成熟于春秋战国时期。当时正是奴隶社会走向封建社会一个大变革的时代。由于生产力的发展，特别是手工业、农业、商业和航海业发展的实际需要，引起了天文地理、气象学、数学、力学等知识的产生和发展，使人们逐渐摆脱了氏族宗教观点以及神权、迷信思想的束缚，迎来了文化方面的高潮，出现一个“诸子蜂起，百家争鸣”的局面。可以认为，阴阳五行学说是当时社会的一种哲学思潮。约在西周末年，《周易》一书首先谈到阴阳。如所周知，任何一门自然科学的发生发展，都离不开当时社会哲学思潮的影响，并受一定的哲学思想所支配。因此，在当时历史条件下，阴阳五行学说不仅用来解释天文、地理、历法、农业等方面，同时也势必渗透到祖国医学中来，并逐渐成为中医理论的重要组成部分。借以说明人体的生理功能、病理变化，并指导着临床的诊断和治疗。

但是，我们也应该看到，由于社会历史条件的限制，阴阳五行学说还仅仅停留在朴素的唯物论和自发的辩证法范畴，理论尚不完备，因而也就很难完全解释宇宙和复杂的生理、病理现象。为此，我们要用一分为二的观点予以批判地继承，取其精华，古为今用，为创立新医药学奠定好基础理论。

第一节 阴阳学说

一、阴阳的基本内容

（一）阴阳的概念：阴阳，是对自然界相互关联的某些事物和现象对立双方的概括。它既可以代表两个相互对立的事物，也可以代表同一事物内部存在的相互对立的两个方面。古人通过长期的观察，发现地球是在不断地运行着的，由于地球的运动，才有日、月、星、辰的转移，春夏秋冬的往返。日月交替为一天，寒暑往来为一年。一天，一年的变化，都是由于相互关联对立双方运动的结果。由此推演，进而认识到自然界的任何事物都包含着相互对立的两个方面。如天与地，高与低，上与下，动与静，昼与夜，晴与雨，寒与热……等等，构成了矛盾对立的双方。正是由于这种相互对立，正反两方面的相互作用，从而促使了事物的发生与变化，于是进一步把这相对的两方面用阴与阳来进行概括，从而上升为理论。《素问·阴阳应象大论》说：“阴阳者，天地之道也，万物之纲纪，变化之父母，生杀之本始”。说明了事物相互对立是一个普遍规律，也是一切事物分类的纲领。它是万物变化的根本，同时也是生长、毁灭的根源。

阴阳学说认为，世界是物质性的整体，世界本身是阴阳二气对立统一的结果。阴阳对立概念的产生，是来自实践的总结，体现了物质的观点、运动的观点、变化的观点。

（二）阴阳属性的划分：阴阳对立概念的产生，是由于观察世界、认识世界，从实践中

总结出来的。前人发现自然界事物都是以相互对立的形式存在着，任何自然事物内部都包含有相互对立的两个方面，并将其中的一个侧面称为“阴”，另一个侧面称为“阳”，以此作为代表，合起来称为阴阳。

阴阳是代表对立着的两个侧面，中医学里的阴阳是依照一定的规律划分其属性的。古代劳动人民在长期的实践中，选择了日常生活中不可缺少的水与火，作为划分阴阳属性的象征性比喻。即水及属于水之特性的事物属于阴；火及属于火之特性的事物属于阳。那末，以此类推，凡是静止的、下降的、寒冷的、晦暗的、物质的、衰退的，都属于阴；凡是活动的、上升的、炎热的、明亮的、功能的、亢进的，都属于阳。由此可见，阴阳属性的划分可以说明自然事物具有矛盾对立的普遍性质。例如，天和地，则天为阳，地为阴。因为天在上故属阳，地在下故属阴。火与水，则火为阳，水为阴。因为火性炎热向上故属阳，水性寒冷而下走故属阴。再从事物的运动变化来看，当事物处于沉静状态时便属阴，处于躁动状态时便属阳。由此可见，阴阳学说中的所谓阴阳，是一切事物和现象相互对立统一双方的一种抽象概括，同时也代表着某一事物和现象的双方属性。因此说，阴阳存在于任何事物之中，这是它的普遍性。

但是，事物的阴阳属性不局限于某一特定事物，也不是绝对不变的，而是相对的，还必须根据一定的条件来决定。如，以温热寒凉来说：热与温比较，热为阳，温为阴；但以温与凉比较，则温为阳，凉为阴；再以凉与寒来比较，则凉为阳，寒为阴。因此说，相互关联的事物，其中对立的一方改变，则阴阳属性也随之改变，这是阴阳属性的相对性。另外，阴阳还具有无穷的可分性，表现在阳中还可以分阴阳，阴中还可以分阴阳。如昼为阳，则上午为阳中之阳，下午为阳中之阴；夜为阴，则前半夜为阴中之阴，后半夜为阴中之阳。说明了阴阳是可分的，宇宙间任何事物都可分阴阳。任何一种事物的内部还可以分阴阳两个方面。因此说阴阳有普遍性，也有相对性及其可分性。正如《素问·阴阳离合论》所说：“阴阳者数之可十，推之可百，数之可千，推之可万，万之大不可胜数，然其要一也。”这里的“一”就是阴阳。

（三）阴阳的基本规律：

1、阴阳的对立斗争：普遍存在于自然界一切事物中的阴阳两个方面，是相互对立的，它们之间之所以是相互对立的，主要表现于它们之间是相互制约的，相互斗争的，有制约才有规律性，有斗争才有发展，相互制约是说对立着的任何一方都对另一方起着制约的作用。一年四季就有温、热、凉、寒的气候变化。比如，从立春以后，天气一天天由寒转温；立夏以后天气一天天由温转热；立秋以后天气一天天由热转凉；立冬以后天气一天天由凉转寒。可见春夏之所以温热，是因为春天阳气上升抑制了秋冬的寒凉之气；秋冬之所以寒凉，是因为秋天阴气上升，抑制了春夏的温热之气，这种变化说明了自然界阴阳斗争，相互制约的结果。体现了具有一定的规律性。所以《类经》说：“动极者镇之以静，阴亢者胜之以阳。”这里的“镇”、“胜”都是制约的意思。而制约又完全是阴阳对立面相互斗争的结果。人体在正常的生理状态下，是以升降出入作为物质运动的基本形式，其中阴阳两个对立面也是处于互相排斥、互相斗争着的。它们之间仅仅维持着动态的平衡。所以说新陈代谢是物质运动的基本形式。阴阳对立双方的不断排斥与斗争，推动了事物的发展和变化，从而进一步说明了事物发生变化的根源。

2、阴阳的相互依存：阴阳的相互依存，是指阴阳对立面相互依存、相互为用的关系。阴与阳任何一个侧面的存在，都要以对方的存在为前提，不论阴或阳哪一个侧面都不能脱离